

リスク・マネジメント会議 新型インフル^対報告会 BCP作成の実例も

リスク・マネジメント

推進会議(安並理事長)は、「中小企業のための新型インフルエンザ対策BCP」報告会を7月22日午後6時半から東京都江東区豊陽の江東区産業会館で開いた。

新型インフルエンザの流行に対し、中小企業では大手企業のものに対応に予算や人材を十分に組むことができない、何かから手を付ければよいのかからない、事業の継

続・停業・復旧がどれくらいか、といった不安や悩みを抱えている。この報告会ではそれらを解決すべく、新型インフルエンザ対策BCP(Business Continuity Plan)

事業継続計画)を作成した3社の事例を取り上げた。

会に先立ち、安並理事長は「今、インフルエンザはほとんど沈静化したと捉えられていますが、世界的に見ますとまだフェーズ6に達しなかったままで残っています。今、前半は感染期に入っていて、もう千人という規模で拡大しており、BCPは大きな災害が起こったときに、どのように行動し回復していくかの計画を立てておく、いざ危機に面したときに発動し行動するということです。まだ普及してはいないと思います。そもそもBCPは中小企業が限

神・淡路大震災を受けて、地震や津波などを主本に策定指針を作りました。

今回のインフルエンザに対するBCPというものも相違するものがあると思います。ぜひ、この報告会がBCPに取り組みきっかけの場になれば幸いですとあいさつした。

その後、安並理事長が社長を務める金属容器・包装資材・パッケージ・セルスプロモーションを事業とする井田産業、大成ファイナンス・カルの稲生善人社長、情報システムを事業とするベクタデザインの高橋幻社長が自社の取り組みについて説明した。

①国や自治体のガイドラインと自社のBCP(BCP発動のトリガー)②HOのフェーズ別行動等)③本場に突如できる職場における感染予防策、必須となる備蓄品・連絡体制の整備状況、効果的な教育・訓練の実施状況、従業員感染、従業員の家族感染、取引先従業員者感染対策の自社の中核事業の継続におけるポイント④中核事業の収まりの際の苦境⑤中核事業のリスクアセスメントの進め方、中核事業継続のために決定した具体的対策、スムーズな事業復旧のためのポイント⑥自社の新型インフルエンザ対策の課題⑦従業員・委託先など、ピット、貴客やインフラなど、モノ、運転資金の調達など、カネ、各資源における課題、について事例を紹介した。